

# 岩手農大同窓会会報

題字は伊藤前会長

第 20 号  
平成 25 年 3 月 1 日

【発行・編集】  
岩手県立農業大学校同窓会  
岩手県胆沢郡金ヶ崎町蟹子沢14  
TEL 0197-43-2211



## 会員の親睦を深める意義と対応

岩手県立農業大学校同窓会

会 長 阿 部 時 男

当同窓会は、農業教育機関の再編に合わせて、昭和57年11月に六華会（県立農試関係修了生）、六原農友会（県立六原農場関係修了生）、県立蚕業講習所同窓会が合併し、さらに、昭和61年10月には県立浄法寺営農高等学園同窓会が加わり、現在の組織となっております。

本会は、会員相互の親睦を深めるとともに、連携を図りながら母校の発展に寄与することをねらいとし、本部にあっては農業大学校の協力を得て、支部にあっては普及センター等の協力を得て活動を展開してきているところであります。

しかし、一部の支部にあっては組織体制や連絡体制が整っていないなど、全般に活動は停滞気味であります。「1年に1度でも良いから会員の交流親睦を持ちたい。」とか「総会等の集まりに若い会員も含めたもっと多くの会員が集まるようにしたい」などの支部役員の声がそれを裏付けています。

これは支部組織の体制不備と会員の後援会に対する価値観の問題でもあるかもしれません。本部役員会や支部役員会をきめ細かに開催し、地域にあった活動を見出し、それを行動にうつし、会員にも、大学校にも、そして、地域にも価値ある後援会に育てていきたいものです。

さて、最近、世界も日本も大きく変わる動きが感じられます。如何に変わろうとも我が国の食料は、相当量国内で生産、確保しなければならないことには変わりがないと考えられます。食料は、安全で安心ができる、しかも安価なものでなければなりません。農業生産資材価格の乱高下や生産物価格の不安定さが付きまとい、農業環境は一層厳しいものとなっております。

今後、農業・農村をプラスの方向に持っていくためには、同窓生の一人一人が農業大学校の教育精神を再確認し、豊かな発想力や創造力を持ち、理論と実践を兼ね備えた社会の担い手（自己発展のため、社会貢献のために活動する人）に成ることが望ましいと思います。

同窓生は、そのような人間になるために、お互い協力（利用）したり、協力（利用）されたりして成長していくべきではないでしょうか。

同窓会の活動は、そのために必要な親睦を深める機会を作るように心がけることであると思います。

親睦を深める糸口となる場づくりは、地域によって異なると思うので、支部組織の体制を整え事務局と役員が中心となり、より良い場づくりと活動内容の充実に向け、創立31年目を迎え、さらに努力して行こうではありませんか。



雪景色の農大本館（撮影：平成25年2月25日）



同窓会報に寄せて

## ～ 農大の近況 ～

岩手県立農業大学校

校長 千葉 泰 弘



同窓会会員の皆様におかれては、ご健勝で、ご活躍のことと思います。

早いもので、今年度も、間もなく卒業生を送り出す季節となりました。今年、本科61名、研究科2名の卒業を予定しております。卒業後の進路は、ほぼ全ての学生が2月中旬までに決定しており、例年になく順調な状況です。進路指導担当職員の配置など、きめ細かな指導の成果と考えております。卒業後の進路は、自家や農業法人などへの就農、農協などの農業団体や農業関連企業等への就職が中心なのは例年と同じ傾向ですが、今年度は自家就農者が14名、1～2年後の就農を目指し研修に出る者が3名、農業法人への就職が10名と、いわゆる就農が27名、44%で、昨年を約10%上回るのが特徴です。農業の担い手養成の中核機関を標榜する本校としては、喜ばしいことと感じているところです。これまで自家就農学生については、既に進路が決定しているものとし、学校では特別な取組を行っていませんでしたが、今年度から在学中の就農計画の作成を支援するとともに、農業改良普及センター等関係機関との情報の共有など、円滑な就農を促す体制を整えているところです。同窓会会員の皆様のお力も様々な場

面でお借りすることがあると思いますので、よろしくお祈りします。

長年の懸案であった水田の移転事業が行われており、25年から本部に近いエリアでの水稲栽培が始まります。また、草地除染事業も本格化しており、26年度までに約110haの全草地の除染・更新を行う予定です。実習を重視する本校にとって圃場は重要な教育基盤であり、その充実が学習効果の向上に直結するものと考えているところです。

また、授業で制作したフラワーアレンジメントの金ヶ崎町役場と六原郵便局への定期的な展示、陸前高田市等での東日本大地震津波の復興支援への前年からの継続取組、学生が主体的に企画した農大祭や農大産直の運営などに力を注ぎ、それらの様子が新聞やテレビで紹介されています。今後とも、同窓生の皆様から、わが母校もなかなか頑張っていると思われるような学校運営に、教職員一体となって努めて参りたいと考えております。

終わりに、同窓会会員の皆様の益々のご多幸をお祈りし、本校の教育活動に更なるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### ◆ 支部便り ◆



### 宮古支部

### 同窓会近況報告

支部長 菊地 正 男  
(同窓会副会長)

同窓会支部体制を見直し、支部活動の活性化を目標に本年2月に宮古地方の一市二町二村の会員376名の体制で発足した宮古支部でございます。新体制の支部は、宮古地区、岩泉地区のそれぞれの支部組織の元に活動

されておりました。県内各地区の市町村合併等に伴い、支部の再編が求められ、新たな宮古支部として平成19年2月に再発足したところであります。新しい支部活動として、各市町村ごとに代議員を選出し、地域活動を盛り上げているところであります。

当地域は、ご案内のとおり、農業、林業、更に漁業を含めた地域活動が求められています。

このような地域事情を踏まえながら一応同窓会組織体制を整備しました。幸いにも会員の皆様には、現在自営、農協関係、自治体職員、農業委員、自治体首長、議会議員など、それぞれ地域の真のリーダーとして頑張っておられます。

私ども同窓会の基本的姿勢は農業であります。よく言われます「人づくり」とは、つまるところ「米づくり」と同じだとも言われます。「米づくり」に大切なものは、太陽と水と土であるように、地域農業の担い手である我が同窓生は、農業は勿論、地域の発展に係わりそれぞれの会員自身も併せて発展されることを願ってわか

支部の近況報告といたします。

なお、平成23年3月11日の三陸大津波により、通常の生活ができないような状況にありましたが、今、ようやく一部の災害を除き復旧も見られるようになってきました。今後の再建につきましては、皆様のご指導、ご協力をお願い申し上げご報告といたします。



## 花巻支部

### 雑 感

支部長 藤原 勝 栄

花巻支部は花巻市、石鳥谷町、東和町、大迫町の会員910名からなり、農業者は勿論のこと、農協職員、会社員、公務員、市議会議員など様々な分野で活躍されております。

同窓会の歴史は古く、1910年代に県立農業試験場練習部を卒業された方から現農業大学校卒業生まで100年近くの歴史があり、その時代時代の農業情勢に対応した流れの中で勉学してきており、専門分野的にも広範になっています。

花巻支部は、組織的活動が出来ていない現状であります。1960～1970年代卒業のOB定年退職者と現役バリバリの有志20名程が集う農業短期大花巻OB会があり、この親睦交流の中で色々の問題点を整理しながら組織体整を整え、広く会員に働きかけて組織強化を

図りたいものと思っています。

農業は国の基とも言われ、人の命を支える継続が必須の重要な産業です。農業は重要だと言いつつも政策の継続性もなく農業の将来に不安を感じます。戦後は農地改革と生産技術指導の強化や農業関係機関の連携により、食糧不足の解消と、その後には、経済の高度成長にも寄与して来ました。

現在の農業・農村は、農業従事者の減少と高齢化の進行、遊休農地の増加、そして、農畜産物価格の低迷、国際社会への対応など多くの課題を抱えており、食料自給率は39%まで低下しています。

このような中で、農村が活力を取り戻し、農業所得の向上を目指すこれからの農業施策として、遊休農地対策、農地の有効利用や担い手を定める地域農業マスタープランづくりが進められております。管内農協の正組合員は70才(一世代)以上が36%で、世代交代も待った無しの状況であり、安定的な農業経営体が望まれています。

農業大学校在校生の皆さんには大学校での専門的な知識と研究や海外での研修で勉学を深められ、将来の担い手としてご期待申し上げます。併せて大学校のますますの発展をご祈念申し上げます。



## 盛岡支部

### 新しい同窓会の体制をめざして

代議員 笹田 昭 市

平成23度まで同窓会の事務局を担当しておりました笹田です。平成24年3月で県職員を定年退職し、現在は盛岡支部の一会員となっております。

私は、滝沢村の県立農業短期大学校を昭和48年に卒業後、昭和49年に県職員となり北上農業改良普及所配属でしたが、兼務地の六原農場勤務となりました。昭和51年4月には六原営農大学校となりましたが、その時教務係に異動し同窓会の事務も担当しました。現同窓会の前会長だった伊藤寛さんは、当時も同窓会長でしたので、いろいろお世話になりました。

その後、浄法寺営農高等学園に勤務したのち、北上、久慈、江刺の各農業改良普及所で農業改良普及員として勤務しました。それぞれの勤務地では、地域のリー

ダーとなって活躍されている同窓生の皆さんに大変お世話になりました。

平成13年4月に農業大学校勤務となりしばらくぶりに六原の地で5年勤務し、平成18年～19年は二戸農業改良普及センターに参りましたが、平成20年4月には又農業大学校に戻り、県職員最後の4年間同窓会事務局を担当させていただきました。各支部の皆さんにはいろいろ御協力をいただき、この場を借りてあらためて御礼申し上げます。

さて、盛岡支部では、竹鼻邦男さんが支部長を長年務められておりますが、そろそろ新しい体制にバトンタッチをすべく準備を進めようとしております。3月下旬頃には、現役員を中心にして若い会員にも声をかけ、話し合いの場を持つ予定です。農業大学校も創立以来30年を過ぎておりますので、できるだけ早い機会にその卒業生を中心とした同窓会に変えていく必要があると思います。現在、現役でバリバリ仕事をされている方々にも御協力をいただきながら、すぐには難しいこととは思いますが、できることから少しずつ始めていきたいと思っています。

# 平成24年度岩手県立農業大学校同窓会総会報告 (抜粋)

■開催日：平成24年 4月25日(水) ■開催場所：農業大学校本館 2階会議室

## 1. 平成24年度事業計画・実績

- (1) 支部活動の促進
- (2) 同窓会会員台帳の整備
- (3) 同窓会会報の発行 平成25年3月上旬 1,000部
- (4) 農業大学校卒業生(直近5年間)交流への支援
- (5) 農業大学校事業支援
  - ア 農大祭への支援：平成24年10月27日(土)～28日(日)
  - イ 農業創造シンポジウムへの支援：平成24年11月22日(木)
  - ウ 本科2年生48名の海外派遣研修支援  
平成24年9月3日(月)～10日(月)、アメリカ合衆国カリフォルニア州
  - エ 「緑の学園」(オープンキャンパス)事業支援  
第1期 平成24年7月30日(月)～31日(火)  
第2期 平成24年8月1日(水)
- (6) 農業大学校同窓会全国連盟及び東日本農業大学校同窓会連盟への参加
  - ア 全国連盟総会 平成24年7月10日(火) 東京都
  - イ 東日本連盟総会 平成23年6月7日(木)～8日(金) 山形県
- (7) その他
  - ア 平成24年度入学式 平成24年 4月10日(火)
  - イ 平成24年度卒業式 平成24年 3月7日(木)
- (8) 役員会・総会  
総会及び役員会 4月25日(水)

## 同窓会役員名簿 (平成23年～24年)

役職	氏名	支部
会長	阿部 時男	紫波
副会長	及川 誠	北上
副会長	菊地 政男	宮古
理事	竹鼻 邦夫	盛岡
理事	田村 忠	岩手
理事	藤原 勝栄	花巻
理事	千葉 幸一	奥州
理事	槻山 隆	一関

役職	氏名	支部
理事	林田 勲	気仙
理事	菊池 長助	遠野
理事	岩城 明	久慈
理事	高崎 覚志	二戸
監事	千田 敏夫	北上
監事	及川久仁江	奥州
事務局長	高橋 栄蔵	奥州

## 2. 平成24年度収支予算書(案)

		収入総額	1,083,739 円	
		支出総額	1,083,739 円	
		差引残高	0 円	
1) 収入の部				
項目	本年度予算額	前年度予算額	差引増減	摘要
1 繰越金	98,539	93,474	5,065	前年度繰越金
2 会費	700,000	67,000	30,000	会費70名×10,000円
3 寄付金	0	0	0	
4 雑収入	5,200	200	5,000	預金利子等 東日本会長賞副賞
(緑の学園)	280,000	200,000	80,000	農業公社より
合計	1,083,739	963,674	120,065	

2) 支出の部				
項目	本年度予算額	前年度予算額	差引増減	摘要
1 総務費	150,000	130,000	20,000	
1) 事務費	30,000	30,000	0	切手・振込手数料
2) 会議費	120,000	100,000	20,000	総会、役員会
2 負担金	90,000	90,000	0	後援会費 30,000円 全国連盟 55,000円 東日本連盟 5,000円
3 活動費	675,000	580,000	95,000	
1) 支部活動費	90,000	90,000	0	支部当たり20,000円以内
2) 大会参加費	70,000	70,000	0	全国連盟総会 東日本連盟総会
3) 農大祭支援	30,000	30,000	0	
4) 農業創造シンポジウム支援	20,000	20,000	0	
5) 卒業生交流等	10,000	10,000	0	
6) 会報発行	55,000	55,000	0	同窓会会報
7) 海外農業研修支援	100,000	100,000	0	2年生の海外研修支援
8) 卒業生表彰	20,000	5,000	15,000	卒業生表彰(全国連盟・東日本連盟副賞)
(緑の学園)	280,000	200,000	80,000	
4 積立金	100,000	100,000	0	
5 予備費	68,739	63,674	5,065	
合計	1,083,739	963,674	120,065	

※ 特別積立金 400,000円 (22年度・23年度会計より)

## 同窓会新会員となる今年度卒業生をよろしく！

今年度は、本科61名と研究科2名の計63名が同窓会会員として仲間入ります。卒業生の支部ごとの出身者は、次の表のとおりとなっております。同窓の仲間として、また、地域の担い手としてご指導をよろしくお願いいたします。

各支部では、地域の実態に即して会員相互の親睦を深めるための事業を展開し、その中で新会員へも声掛けをして会員の輪を広げていただければと思います。

なお、このための支部活動助成もありますのでご活用ください。

### 【支部ごとの卒業生数】

支部名	人数	内 訳	支部名	人数	内 訳
盛岡	9	盛岡2、滝沢3、雫石4	気仙	3	住田2、三陸1
紫波	6	紫波4、矢巾2	遠野	4	遠野3、大槌1
岩手	1	八幡平1	宮古	1	宮古1
花巻	5	花巻3、東和1、石鳥谷1	久慈	2	久慈1、洋野1
北上	3	北上1名、西和賀2名	二戸	2	浄法寺2
奥州	5	水沢4、胆沢1	県外	14	秋田県8、宮城県3 ほか
一関	8	一関4、花泉1、室根1、平泉2	合計	63	

※名簿は、各支部長に送付致します。

## 全国のプロジェク発表会で特別賞受賞！

平成25年2月20日(水)、東京都の国立オリンピック記念青年総合センターで開催された平成24年度全国農業大学校等プロジェクト発表会に東日本の代表として参加した本校研究科の高橋友佳子(雫石町)さんが、研究部門の特別賞を見事受賞しました。

高橋さんは、研究科卒業後の就農を視野においた「新規就農に向けたトマト隔離床栽培の導入検討」について発表し、審査員から高い評価を受けたものです。